（2018年）
平成30年
10月31日発行

紀南PTA連合会報

〈発行〉紀南PTA連合会
熊野市木本町622-13
TEL･FAX 0597-88-2511
〈編集〉紀南PTA連合会
広報委員会

「つながりを大切に」をテーマに

定期総会を開きました

紀南ＰＴＡ連合会では、平成30年度定期総会を5月20日に熊野市民会館で開催しました。熊野市・御浜町・紀宝町の首長や教育長等を来賓に迎え、多くの会員の皆さんが参加のもと、平成29年度事業報告及び決算報告、平成30年度事業計画及び予算案を審議の上、承認いただきました。

平成30年度本部役員の改選で新会長に久保勝裕さんが選ばれました。活動方針テーマとして決定した「つながりを大切に　紀南Ｐ連」を目標に、この紀南地域の将来を担う子どもたちのために新会長を中心に本部役員が一丸となり、取り組んでいきます。

会長あいさつ

久保　勝裕

橋渡し的な担い手
見つめ直し大切に

会員の皆さんこんにちは。平成30年度紀南ＰＴＡ連合会会長を務めさせていただきます、久保勝裕と申します。

皆様には日頃からＰＴＡ活動にご理解・ご協力をいただき、まことにありがとうございます。

さて、平成30年度はテーマを「つながりを大切に　紀南Ｐ連」、サブテーマを「子どもたちのために、みんなで力を合わせよう！」といたしました。

私も会長になるにあたり、今年度はどのようなテーマが良いのか想いを巡らせている時、そもそも紀南Ｐ連の役割は何だろうともう一度考えました。

そういった視点からもう一度、資料を見ていた時に紀南ＰＴＡ連合会の活動方針に目がとまりました。それは「家庭、学校、地域、行政との連携と情報の共有」。

紀南Ｐ連はいろいろな団体とつながりを持っています。そのつながりを、今年度はもう一度見つめ直し大切にしたいと思いました。たとえば、いま多様化している子どもの問題。ＳＮＳなどの問題など、時代の流れが速く対応が難しくなってきています。

このような時代であるからこそ、家庭、学校、地域などがつながりをもって「子どもたちのために、みんなで力を合わせる」という姿勢が大切だと考えています。そして、そのつながりの橋渡し的な担いも、Ｐ連には求められているのではないかと考えています。

こういったことから、今年度のテーマ、サブテーマをこのようにさせていただきました。

今年度もＰ連では研修会や広報誌の発行、ＰＴＡ大会など活動をしていきます。ぜひともたくさんの参加をしていただき、たくさんのつながりを作っていきたいと思っています。

力を合わせ、子どもたちが安心して過ごせるような環境をみんなで作っていきましょう。

どうぞよろしくお願いいたします。

県教育委員会に陳情へ

教育内容の充実など５項目を要望

紀南ＰＴＡ連合会は、三重県議会の最終質問日である6月15日に藤根県議・大久保県議の両名にご協力のもと、三重県教育員会へ直接陳情に上がる機会を設けていただき、木本・紀南両高校ＰＴＡ、くろしお学園ＰＴＡ、教職員組合紀南支部長と共に「県立高校の募集定員及び施設・設備の充実」について陳情を行ってまいりました。

陳情の内容としましては、陳情内容を大きく５つに分け、

- **両高校の存在意義と教育内容の充実**
- **募集定員策定にあたり当地域の実情を勘案頂く事**
- **両高校の特色・生徒の安全を考慮した施設・設備の改善**
- **東紀州くろしお学園への教育内容・環境の一層の充実**
- **木本高校定時制の存続**

について、僻地である当地域の実情を、十分考慮いただけるようにお願いをしてまいりました。

とくに募集定員の策定に対しては、紀南地域の中学生を受け入れられる十分な数の定員を確保できるよう、又、木本高校定時制に関しても、陳情を行った時点で新入学者は０名であったこともあり（現在は1名中途入学）、定時制の存在意義、必要性を切に訴えてまいりました。

この陳情は、例年同時期に行われているものですが、陳情内容の中にも「２校存続」という言葉が入っており、この紀南地域の思いを伝え、繋げていくためにも、来年度もこの活動を続けていけたらと思います。

●平成30年度本部役員及び監事

会長	久保勝裕	木本小	アドバイザー兼家庭・幼児教育副委員長	川口寛将	有馬中
副会長兼総務委員長	平昌樹	五郷中	アドバイザー	荘司祐介	矢渕中・うどの幼
〃 広報委員長	今西真也	阿田和中	アドバイザー	川口朋	有馬中
〃 広報副委員長	岡本直美	相野谷中	アドバイザー	野地本隆	阿田和小
〃 研修委員長	奥地孝弘	御浜中・御浜小	アドバイザー	川上眞美	矢渕中
〃 進路研究委員長	玉置一貴	成川小	アドバイザー	松田有紀	木本小
〃 進路研究副委員長	大江勝治	木本小	アドバイザー	大崎重久	御浜中
〃 家庭・幼児教育委員長	九鬼町子	井戸小	事務局長	吉野大樹	飛鳥中・飛鳥小
〃 家庭・幼児教育副委員長	笹本祐輔	有馬中	事務局次長	森倉一俊	矢渕中・井田小
アドバイザー兼総務副委員長	松田唯	木本中	監事	塩野真	矢渕中
アドバイザー兼研修副委員長	松本有希	阿田和小	監事	山門祐典	御浜中

単P通信

学校公開日の取り組み

授業参観や劇・合奏などの発表

熊野市立
飛鳥小学校

本校は熊野市の山間部にあり、全校児童17名の小規模の学校です。毎朝、子どもたちの「おはようございます」という元気な声が聞こえてきます。

６月19日（土）は土曜授業の日でしたが、本校では例年、その日を学校公開日として、保護者や地域の方に呼びかけて、授業参観等を行っています。

１時間目からの公開でしたが、その日は全世帯の保護者が来てくれて、地域の方も６名参加してくれました。１時間目は各教室で、担任による授業を行いました。本校は１・２年、３・４年、５・６年という複式学級となっていて、初めて複式の授業を見た保護者や地域の方もいました。授業を見た地域の方からは「複式の授業を初めて見た。先生も大変ですね」という感想があり、学校の様子を保護者や地域の方に見てもらう良い機会となっています。

２時間目と３時間目は体育館で、各クラスごとに劇や合奏などの発表を行いました。最初は、少し緊張気味の子どもたちでしたが、練習の成果をせいいっぱい発揮しました。

そのあとは、児童会が企画・運営をした「みんなで体をうごかそう」で、しっぽとりやつなひき、ドッチボール等を行いました。保護者対児童で行うものが多く、大いに盛り上がりました。子どもたちもお父さん、お母さんといっしょにするのがとても楽しそうで、「楽しかった。またしたい。」という感想が多く、保護者の方の評判も良かったです。

本校のような小規模校においては、保護者・地域の方々の協力が必要不可欠です。今後も引き続き、開かれた学校づくりの一環としてこのような活動を行っていきたいと考えています。

出店やゲームで交流の輪広がる

紀宝町立
井田小学校

親子のつどい

７月29日（日）午後５時から、ＰＴＡ行事「親子のつどい」を開催しました。

毎年、夏休み期間中に学校の施設を開放し開催しています。台風の影響で開催が危ぶまれましたが、当日の早朝に当地域を通過したので、夕方には風雨の心配もなく実施することができました。

今年も約２００名の児童、保護者、教職員が集まりました。当日は、友だちと誘い合ってくる子、家族と一緒にくる子、終業式から10日ほどしかたっていませんが、久しぶりに会う子もいたようです。ＰＴＡ委員、地区委員は「食べ物」「かき氷」「ゲーム」の３つのグループに分かれ、午後２時頃から準備を始めます。参加者は、受付で参加費100円と引き換えにうちわを受け取り、そのうちわを見せてかき氷や食べ物を受け取ります。かき氷は大人気で、担当者は休む間がありませんでした。食べ物は、やきとり、枝豆、フライドポテトを用意し、夕食代わりに食べる参加者もいて楽しいひと時を過ごしました。

午後６時頃から、約６０名の児童と保護者が混合で４つのチームに分かれ、「ゲーム（ドッジボール）」で盛り上がりました。チーム内では、大人と子ども、上級生と下級生がボールを譲り合う微笑ましい場面が見られ、コートの外の少し涼しくなった校庭では、友だちや家族が応援していました。井田小学校を卒業した中学生や高校生も来て懐かしい姿を見せてくれました。元々は各地区で七夕行事として行っていたようですが、今では校区全体の交流する場になり、有意義なものになっています。

熊野市立
金山小学校

夢にむかって

水泳メダリストの松田選手迎えて

本年度、JFA（日本サッカー協会）主催で、スポーツ選手が夢先生として派遣される「夢の教室」が、熊野市教育委員会を通じて、市内の各小学校で開催されました。

金山小では、６月11日（月）水泳のオリンピックメダリスト松田丈志さんをお招きして、５年生対象として『夢を持つことの素晴らしさ』について授業をしていただきました。５限目は松田さんと体育館で体を動かしながら触れ合い、６限目は教室で夢先生として特別授業をしていただきました。松田さんから子供達に「勝ち負けよりも、それに向かって一生懸命頑張る事が大切」「仲間と声を掛け合ったり、協力することが大切」「失敗した子をせめない」このようなメッセージを伝えていただきました。

《子ども達の感想より》

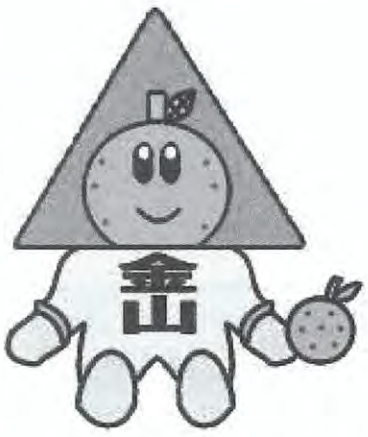
「わたしも夢をあきらめないように何事にも頑張ります。」「自分の可能性を松田さんのように信じて人生を歩んでいきたいです。」など、子ども達は松田さんのメッセージをしっかり受け止めていました。

マスコットキャラクター

「オレンジ山ちゃん」誕生！

金山小学校では児童会の目標を決めるにあたって、タテ割り班で会議を行っています。

そこで全学年の子ども達から出された意見をもとに、６年生のリーダー会議を行い、児童会の目標を ◆「ローカを歩こう」、◆「あいさつ大好き金山小学校」と決めました。



こうした中、キャラクターを使って目標を呼びかけるポスターに登場させると、愛着が湧き、より目標を守りやすくなるのではないか、という意見が出ました。そこでマスコットキャラクターを児童に公募した結果、63名の応募があり、最終選考の結果『オレンジ山ちゃん』が選ばれました。選考に携わった６年生からは、「とっても可愛く、愛着がわきやすい、金山小にちなんだキャラクターを考えてくれて良かった。」と金山小学校の人気者になっています。

『オレンジ山ちゃん』の顔と手に持ったみかんは、金山がみかんで有名であること、緑色の三角形は緑に囲まれた金山小学校の恵まれた環境からデザインされたということです。

これからも金山小のみんなを見守ってくれることでしょう。